

第1回つくば市行政経営懇談会会議録要旨

	意見の種類	意見等	対応等
1	「市民参加」について	<p>「市民が直接的に市政に参加する」ということについて、我々は選挙で選んだ代表者に市政を任せる間接民主主義だと思うが、そもそも直接市政に参加していいのか。この「直接的」というのは、どの程度のことを言うのか教えてほしい。</p>	<p>【会議にて事務局回答】</p> <p>今、市民の方に市の会議に委員として参加いただいているという状況が、まさに「直接的」な参加と考えている。</p> <p>職員が自分たちだけで計画等を決めるという方法もあるが、そうすると、これまでの考え方から脱却できなかったり、市民目線が欠けるということが起こり得る。そういったときに、公募等による委員やパブリックコメント手続き、ワークショップ、その他テクノロジーを使った新たな手法等で市民に意見を寄せていたとき、市として精査し、反映していくことも市民の直接的な市政への参加ということになる。</p>
2	市民参加の現状について	<p>つくば市は、市民の活動は様々な分野で積極的に行われているように感じる。</p> <p>ただ、イベントを仕掛けたり、関わったりする方がたくさんいるわりに、自分たちがそこに主体的に関わりながら何か活動をしていくというよりは、誰かがやっていることに乗っかるという形の参加が多いのかなと思う。</p>	-
3	市民参加の現状について	<p>つくば市の市民参加が活発に行われているというのは確かにそうだと思うが、それは若い方と中心部の方の実態だと思う。周辺部になると、高齢化や足の便がないなど、活発に行われているとは言い難い実態があると思う。</p>	-
4	市民参加の現状について	<p>市民参加の手段は多く用意されている。しかし、その手段を使うことで、各市民が自分の生活がどのように良くなるかは理解できていないと思われる。</p>	-

第1回つくば市行政経営懇談会会議録要旨

5	市民参加の現状について	<p>何か自分ごととして考えて行動するためには、周りのサポートが得られるという確信がないと動けない、という部分があると思う。</p> <p>また、自分ごととして考えている人たちは、他の人をどう巻き込んでいったらいいかわからないということが多いため、様々な地区でフリートークができるような場所を設定することが必要じゃないかと思っている。</p>	-
6	情報発信について	<p>行政が持っている情報を市民がうまくタイムリーにキャッチできるような仕組みをどういう形でできるのか、ということが一つヒントになるのではないか。</p>	-
7	情報発信について	<p>つくば市は他の地方公共団体と比べると比較的、外国人へのサポートが充実している方だと思うが、その情報が必要な方に届いていない。つくば市には外国人の市民も多いので、その辺の声をうまく汲み上げるようになればいいと思う。</p>	-
8	情報発信について	<p>研究学園のローカルテレビを使ったほうが、高齢者や公民館にいる方とかには響きやすいのかと思う。</p>	-

第1回つくば市行政経営懇談会会議録要旨

9	情報発信について	<p>高齢で、回覧板に対応できないような方がいる。回覧の配布等について行政側で課題を持ち、行政と地域、区長をはじめ、どうしたらいいのかというようなことも検討していってもらいたい。</p>	<p>【①区会回覧の課題に関する意見は担当課に伝える。】</p> <p>【②会議にて事務局回答】</p> <p>市民参加を進める上で情報の伝達は大変重要。高齢者全体に対する情報の伝達の方法等も市民参加を進めていく上での一つの課題として協議いただけるとありがたい。</p> <p>タブレット端末を使用した回覧板等の新しい技術については技術を使いたいからやるということではなく、市民生活の向上のためにツールとして技術を使うということを市でも目指している。あくまでも地域の課題の解決のために、先端技術を使っていくというのを一つ掲げている。</p> <p>また、先端技術は若者のためのものと思われがちだが、実はテクノロジーから遠いと思われる人たちに寄り添うものだとも考えている。ただ、仕組みを作っただけでは駄目で、使えるようにサポートすることを組み合わせて初めて実効性があるものになっていくと思う。そういったことも話題になれば、つくばならではのさらに発展的な市民参加の方法が打ち出せるかもしれないと思う。</p>
10	市民参加手法について	<p>手法として、例えば、対象あるいはテーマごとに小さなミーティンググループをつくり、幅広く声を汲み上げるなど、様々な工夫を様々なアイデアの中で取り組むことを考えていかなければいけない。</p>	-
11	市民参加手法について	<p>指定された会議に参加する、ある程度まとまった意見を提出するには時間が必要となる。ライフスタイルにもよるが、特に就業者は時間がない。手法が簡単であれば、意見が出てくるのではないか。</p>	-

第1回つくば市行政経営懇談会会議録要旨

12	市民参加手法について	高齢者やインターネットを使えない人については、地元に行かないとなかなか意見を汲み上げられないのではないかと。こういう意見をまとめるのが市の職員や市議会議員ではないかと思う。	-
13	市民参加手法について	様々な角度、手法により意見を集約し、AI等を活用すれば、効率的に必要な意見を抽出することができるのではないかと。	-
14	市民参加手法について	市民のフリースペースの場に市の職員も参加してもらい、そこで生の声を吸い上げることが大事だと思う。	-
15	市民参加手法について	スマートフォンとかの方が利便性があると思う。アンケートやインタビューなど、まちのメールマガジン、LINEから送られてきたものであれば、簡単に答えて簡単に参加することができるような気がする。ハードルを下げるという意味ではITは使いようかと思う。	-
16	市民参加の課題について	サイレントマジョリティーの方々をどうやって引っ張り出していくのかということが、一つ課題。これまで傍観していたような人たち、自分が主体となっていなかった人たちがどうしたら参加していくような仕組みづくりができるのか。	-
17	市民参加の課題について	周辺地域は口に出したり、行動に移すということが苦手な地域だと思う。 また、地域の組織が縦割りな中、今までにない流れをどうやってつくっていきけるかということが本当に大切になるのではないかと。	-
18	行政について	市は待ちの状態、自分たち地域に暮らす人間が動くことでしか、行政の人の意識や行動を変えられないと思った。	-